

4月10日のブラックホール記者会見の舞台裏を紹介する第2回。今回は会見当日の様子について。

高梨直紘(東京大学) / 平松正顕(国立天文台チリ観測所)

ブラックホール発表の主役は、一枚の画像。これが事前に漏れてしまえば、発表のインパクトが薄れてしまいます。このため、事前の情報管理は厳格でした。普通の国立天文台の記者会見では数日前に内容を記者の皆さんにお知らせするのですが、今回は「EHTに関する発表」とだけしかお伝え出来ませんでした。画像が撮れたことも事前には伝えられない夜10時からの記者会見に、どれくらい記者さんが来てくれるのか。一抹の不安があったことも事実です。

東京都心の記者会見場につくと、既に撮影陣が。日本チーム代表の本間希樹国立天文台教授に密着する『情熱大陸』の取材スタッフでした。その後、会見場の準備をしている間に受付前には記者さん・カメラマンさんたちがどんどん集まっていきます。事前の心配は杞憂でした。テレビカメラ14台、記者さんたちを合わせて60名超。複数のネット生中継も

あり、国立天文台はじまって以来ではないかという規模の記者会見になりました。

10時ちょうどに会見が始まりました。国際的な記者会見準備会議の中で決まった画像公開時刻は、日本時間午後10時07分。本間さんもプレゼンに熱が入ったのか、会見場のスクリーンに画像が出たのは予定時刻を2分ほど超えた時でした。会場からどよめき起きるその裏で、私は記者会見場の後ろでウェブサイトの公開とツイッター・フェイスブックへの投稿作業を行っていました。投稿直後から反応はものすごく、アクセス過多でアルマ望遠鏡ウェブサイトがほとんどつながらなくなるほどでした。ツイッターのRT(転送)はどんどん増え、NHKのアプリからはスマホにニュース速報の通知が届き、日本メディアも海外メディアもこぞって報道しているようすがリアルタイムにわかりました。プレゼンが終わった後の質疑応答も盛況。「私たち一般の人々に



記者会見場の後ろからの風景。たくさんのカメラが並ぶさまは壮観でした。

どんなプラスがあるか」という質問もありました。ワイドショーの取材班からこういう質問が出るのは、第一級の研究成果の証、かもしれません。ふつうの科学成果では、なかなかこういう根本的な質問は出ませんから。

と、発表後の反響まで届かないうちに紙幅が尽きてしまいました。続きはまた再来月。会見のようすは、「国立天文台 ブラックホール 会見」でネット検索していただければ動画でご覧いただけます。